

金融研究所の発足に寄せて

日本銀行総裁 前川 春雄

日本銀行は明治15年にその業務を開始して以来、日本経済の歴史とともに歩み本年10月百周年を迎えた。

日本銀行は、幣制の混乱を收拾し、健全な通貨を発行してその価値を護るために設立された。その後時代の進展とともに、金融経済の仕組みは複雑化し、とくに今日においては内外の金融経済相互の関係がいよいよ密接なものとなってきた。金融政策の適切な運営によって通貨価値の安定を図ることは日本銀行にとっての変わらざる使命であるが、これを遂行するにあたっては、内外の金融経済情勢を的確に把握し、適切な判断に基づいた行動をとることが益々重要となっている。

ドイツのブンデスバンク前総裁エミンガー氏は、日本銀行を訪れて講演された際、政策運営に誤りなきを期するためには、「中央銀行は金融経済に関する第一級の調査研究機能を持つことが必要である」と強調された。この意見に深い共感を覚えるとともに、その場合の調査研究活動は多面的な基礎的研究をも含むものでなければならないと考えている。基礎的研究は、樹木にたとえれば根に相当し、一見地味ではあっても、非常に重要である。金融経済のメカニズムに関する理論的な解明は、事象の本質を正しく把握するための基礎である。これによって、たとえば目先の目的を達成しようとする政策が、長期的にはどのような副作用を持つかといったことが明らかになる。また、各国金融経済の制度的あるいは構造的な研究も欠かせない。制度や構造がどのような伝統や背景のもとに形成され、また、金融政策の運営にどのような係わりを持っているかなどを調べることも、極めて大切である。さらに、大局観に立って判断し、行動するうえで、内外の金融経済の歴史は多くの教訓を含んでいる。今日的な問題意識に立った歴史研究も、中央銀行の研究活動の大切な一環である。

これらの基礎的研究は、当然のことながら、中央銀行自身の調査研究スタッフのみで充分になしうるものではない。日本銀行では、明治年間からつとに自らの調査研究部門の充実に努めるとともに、関係学界の研究成果にも耳を傾け吸収を図ってきた。しかし、人的交流の制約などいわば日本的風土による限界もあり、日本銀行がその問題意識や経験等について内外学界との間で相互理解を深め 将来の研究に役立てる

といった面では、これまで必ずしも満足のいく状態にあったとは言い難い。この度、日本銀行が百周年を迎えた機会に、その記念事業の一つとして、従来の金融研究局を改組し、金融研究所を設置したのは、まさにこの点の改善を図りたいという年来の願望を込めたものである。

金融研究所の設置により、今後は内外学界との交流を一層積極的に進め、日本銀行における基礎的研究の一段の充実を図るとともに、関係学界の研究の発展にいささかなりとも寄与しうればと願っている。金融研究所は組織的には日本銀行の内部機構であるが、内外の学界にも門戸を開くとともに、研究に関する自主性を尊重し、また、研究成果は研究所の機関誌に掲載するなどのかたちで広く外部にも利用していただく所存である。研究所に期待するものは、長い目で役立つ基礎的研究である。従って時々々の関心事との関連ではやや迂遠にみえる研究もあろうし、試論的なものも多いと思うが、長期的な観点にたった場合、このような研究もそれぞれ一つの重要な蓄積として尊重されるべきものと考えている。

なお、このほか、研究所では、標本貨幣や史料の展示施設を設け、通貨と国民生活との係わり合いなどを示して、国民との接触の場とすることも計画している。

かつては「中央銀行は行動すれども、弁明せず」と言われた時期もあった。しかし、中央銀行の使命が「万人のための通貨価値安定」にある以上、日本銀行としては、時々々の行動について何故そのように判断し行動するかを、国民に説明し、納得してもらうよう努めることが大切であると思う。このような努力を積み重ね、かつ、現実に通貨価値の安定に成功してこそ、中央銀行は国民の信頼を勝ち得ることができ、そうした基盤のうえで中央銀行の独立性を支持する国民的合意が形成されていくのだと確信する。

日本銀行としては今後とも最善の努力を傾けていく所存であるが、基礎的研究の充実・発展について、学界をはじめ調査研究活動に従事する方々のご協力とご支援を切にお願いする次第である。

以 上